



■主な自然環境対策の取組み

「早稲田リサーチパーク地区」と「本庄早稲田駅周辺地区」の地域整備事業では、本庄新都心地区環境検討委員会の提言や、学識委員ヒアリングに基づき様々な自然環境対策が実施されています。主なエリアごとの取組みは、以下の通りです。

IV. 早稲田調整池—本庄早稲田駅周辺地区—

新幹線の南口に接する「早稲田調整池」は、カモ類の越冬地になっていることからオオタカの採餌場であると共に、カイツブリやカワセミ等の生息地でもありました。

区画整理事業の進展に伴い、調整池の規模を縮小する工事が行われることになり、環境検討委員会では生物多様性に寄与する整備が望ましいとの意見が提出されました。

その後の検討により、ヨシ等の水生植物が繁茂する浅瀬の創出や自然に馴染む護岸の形態等の様々な配慮が行われました。



●2010年5月28日
オオタカのとまり場と早稲田調整池



●2007年4月20日
調整池工事前西端部から東方向



●2007年4月20日
調整池工事前池中央から東方向



●2007年4月20日
調整池工事前東端部から西方向



●2008年5月12日
調整池工事中西端部から東方向



●2008年5月12日
調整池工事中池中央から東方向



●2008年5月12日
調整池工事中東端部から西方向



●2010年5月28日
調整池整備後西端部から東方向



●2010年5月28日
調整池整備後池中央から東方向



●2010年5月28日
調整池整備後東端部から西方向



●2010年5月28日
水辺に広がるヨシ原

調整池の再整備に伴い、池の大きさが小さくなり中の島のアカマツが移植されましたが、人工的だった池は自然の池に近い、ビオトープとなりました。水生動植物の多様化が進んでいます。



●2010年5月28日
カワセミ営巣用の土崖



●2018年6月8日
調整池の外周フェンス

調整池の生物多様性を改善するために、池の干上げに際しては、外来水生動物をとり除くと共に再度の放流等を防ぐために外周フェンスが設置され、一時的に保護されたモツゴ・ヨシノボリ等の在来魚類や、水鳥たちも安心して生息できるように配慮されています。

また、フェンスに沿って、ヤブツバキの列植による目隠し植栽や、池に面してオオタカの止まり木となるアカマツの植栽も行われ、年を経るに従い、自然や生きものが豊かになっています。



●2020年11月13日
フェンスを越えるまで成長した目隠し植栽



●2009年12月21日
法面に造成されたカワセミ営巣土崖

■早稲田調整池の経年変化



●2011年6月16日
早稲田調整池 東南部より①



●2013年1月11日
早稲田調整池 東南部より②



●2013年5月2日
早稲田調整池 東南部より③



●2013年6月6日
早稲田調整池 東南部より④



●2014年2月11日
早稲田調整池 東南部より⑤



●2015年12月5日
早稲田調整池 東南部より⑥



●2017年4月15日
早稲田調整池 東南部より⑦



●2018年6月6日
早稲田調整池 東南部より⑧



●2020年11月13日
早稲田調整池 東南部より⑨



●2020年11月13日
ヨシとヤナギが茂り多自然池の景観を成す早稲田調節池



●2020年11月13日
移植されたシンボル木のアカマツ